

令和 7 年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆元気に楽しく学べる学校 ◆一人一人がよさを発揮できる学校 ◆保護者、地域とともにある学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>○三つの柱を踏まえた個別の指導計画の作成や、単元デザインシートによる単元構想と深い学びにつながる授業づくりを行うことができた。また、三つの指標での目標・評価の設定をした授業を展開することができた。単元デザインシートを活用しながら教科の特性に応じた授業構想や、授業づくりシート等を活用しながら児童生徒の深い学びにつながる授業改善の研修を部ごとにさらに深めていく必要がある。</p> <p>○安全点検、様々な避難訓練、研修会や講習会、いじめ早期対策チェックリスト等により安心安全な教育環境の徹底を図った。ヒヤリハット事例を自分事としてとらえる意識の向上、傷病発生時の対応や報告方法に係る研修や、医療的ケア担当者の研修実施時期の検討が必要である。</p>	<p>深い学びにつながる授業改善の推進</p>	<p>①育成を目指す資質・能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成</p> <p>②単元のまとまりを見通した授業づくり</p> <p>③自立活動の指導の充実</p> <p>④授業改善につながる各部研究の推進</p> <p>⑤ICTの効果的活用と校内研修の実施</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>B</p>
<p>○児童生徒が役割を担う体験活動の工夫、思いや考えを伝え合う話し合い活動の工夫、体育的行事や大会、作品応募への積極的な参加をとおして、自己有用感や自己肯定感の高揚を図った。キャリアパスポートの活用をとおして、児童生徒の振り返りと評価方法を工夫していく必要がある。</p> <p>○出向相談等による各種学校への相談支援、校内相談支援、小中学校コーディネーターへの情報発信等によりセンター的機能の強化を図った。高等学校のニーズの把握、体験学習の増加に伴う対応時間の確保と調整、地域連携協議会や特別支援教育推進体制充実事業の実施に伴う人材確保や人材育成育成が必要である。</p>	<p>安心安全な環境と豊かな心、健やかな体の育成</p>	<p>⑥安心安全な教育環境の徹底と事故等の未然防止（自分事としてとらえる意識の向上）</p> <p>⑦自己有用感、自己肯定感を高める活動の工夫</p> <p>⑧道徳教育の充実</p> <p>⑨文化的・体育的活動の充実</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p>
<p>○学校運営協議会での熟議により、地域との</p>	<p>地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p>⑩センター的機能の強化（高等学校のニーズの把握）</p> <p>⑪校内支援体制の充実</p>	<p>B</p> <p>B</p>	

<p>相互理解を推進した。教育課程と結び付け、地域人材を活用した取組を継続して実践していく。</p> <p>○企画の工夫による学校公開の実施、ホームページの工夫やRokustagram、新聞掲載などで積極的に情報発信を行った。学習活動の工夫やタイムリーな情報発信に引き続き取り組み、本校への理解推進に努めていく。</p> <p>○全体研修やボトムアップ研修の実施によりコンプライアンス意識の高揚が図れた。自分事としてとらえられるような効果的な研修を工夫しながら、当事者意識の高揚を目指していく。</p> <p>○退勤時間や定時退勤日の遵守を呼びかけ、時間外勤務の縮減に取り組み、月45時間、年360時間を越える職員はいなかったが、在外勤務時間の個人差が大きい。退勤時間や各自のタイムマネジメントの見直し、校務分掌組織や業務内容の改善を継続し、業務の平準化、多忙感の軽減につなげてく。</p>	<p>⑫学校運営協議会を核とした地域と連携・協働した取組の推進</p>	B	B
	<p>⑬学校ホームページや学校公開等による積極的な情報発信</p>	B	
	<p>⑭新しい鹿特と新校の開設準備</p>	B	
	<p>⑮教職員の姿勢（専門性の向上、コンプライアンス意識の向上、人権の尊重、思いやりと感謝の気持ち）</p>	B	B
<p>重点項目・重点目標達成のための学校体制の推進</p> <p>⑯働き方改革の推進（業務改善、タイムマネジメントの見直し）</p>	B		
<p>⑰鹿特コミュニティ・スクールの推進（地域の人材や資源を活用した取組の年間指導計画への位置づけ、計画的な情報発信）</p>	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	安全安心な教育環境の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 事故やけがの未然防止に向けた安全点検の強化と迅速な報告・対応の徹底 	⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な安全点検による破損や危険箇所の早期発見、事務室と連携した修繕・物品補充による環境整備の徹底、報告様式改正による迅速な報告の徹底 ●学校施設老朽化による修繕、物品在庫の周知、見直しをもった物品購入及び補充 ◇小規模修繕の役割分担の明確化、物品の不足数の把握及び物品在庫の定期的な周知
		<ul style="list-style-type: none"> 保健・安全指導の充実に向けた研修の実施と医療的ケアの安全な実施 	⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ○病気・けが等が発生した際の報告および対応方法の見直し、泊を伴う行事や災害時における医療的ケアの指示書・マニュアル作成による安全な保健・安全指導の実施、緊急時対応シミュレーション研修を全学年で実施 ●傷病発生時の対応や報告方法に係る研修の早期実施、医療的ケア情報の伝達・確認の周知徹底、医療的ケア担当者の研修実施時期の検討 ◇年度初めの緊急時対応シミュレーション研修の実施、医療的ケア情報の伝達・確認方法の見直し、医療的ケア担当者の研修を年度当初と夏季休業中に実施

<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導の充実と食物アレルギーへの適切な対応のためのチェック体制の強化 	⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ブログの活用による情報発信や給食試食会による食に関する理解推進、学校安全委員会や給食委員会等での周知 ●給食試食会の保護者参加率のアップ ◇学校公開に合わせるなど給食試食会の実施日の再検討 ○様々なパターンや時間帯での訓練の実施、災害時引き渡しのフローチャート作成とマニュアルの見直し ●防災教育に係る体験活動や防災備品が少ない ◇防災教育に係る体験的活動の工夫、防災備品のバリエーション拡大 ○いじめ早期発見チェックリストの活用と情報共有による共通理解と早期対応、いじめ防止基本方針の見直し ○生徒指導の基本体制図、スペシャルサポートプログラム学習体制図の作成及び周知による支援体制の整備 ●各部との情報共有、長期欠席児童生徒への支援 ◇職員配置の見直し、長期欠席児童生徒組織的な対応 ○保護者の意見による入校証配付の見直し、通学支援の規定の見直しと熱中症対策の整備による通学における安全面の拡充 ●放課後等デイサービスにおける校内規程や通学方法（自主通学・自力通学）の判定の見直し、年間を見通した組織のフローチャートの作成と迅速な対応 ◇校内規程の整備と関係機関への説明会等による共通理解、通学支援委員内や関係職員との共通理解 ○ヒヤリハット事例の情報共有による重大事故防止 ●自分事としてとらえる意識の向上 ◇情報共有の工夫 ○学校徴収金や諸帳簿の定期的確認による適正管理 ●3学期など短い期間の会計処理、誤配付防止 ◇会計処理やチェック機能の再検討 ○研修会の実施や資料回覧等による意識の向上、中学部・高等部で性的マイノリティの授業を実施 ●研修会の内容の選択、中学部、高等部における性的マイノリティの授業の年間指導計画への位置付け ◇アンケート結果をもとに、人権感覚を磨く研修や自分事としてとらえられるような研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な訓練等の実施と危機管理体制や各マニュアルの見直し 	⑥	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた体制の強化 	⑥	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席児童生徒や生徒指導に係る課題への迅速・組織的な対応 	⑥	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・通学指導マニュアル、運行マニュアルの徹底による安全な通学指導の強化 	⑥	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例の情報共有による事故等の未然防止 	⑥	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校徴収金や諸帳簿等の適正な処理や取り扱いとダブルチェックによる誤配付防止 	⑮	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人権に配慮した指導の徹底 	⑮	B	

	一人一人がよさを発揮できる活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・役に立つ喜び（自己有用感）、できるという喜び（自己肯定感）が得られる学級活動、児童・生徒会活動、学校行事、部活動や放課後等の設定 	⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ○集会活動での発表や表彰による自己肯定感の高揚、運動会等での児童生徒の企画・運営や係活動等による自己有用感の高揚 ●児童生徒の振り返りと評価方法 ◇キャリアパスポートの活用の工夫
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの作成・活用 	⑦	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをもつ、友達の考えに触れる、思いを伝え合う場の工夫 	⑧	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画の見直し 	⑧	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・作品展、作品応募等への積極的参加、体育及び体育的行事の工夫による体力の向上 	⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各部の実態や重点目標を踏まえた道徳の年間指導計画の見直し ●授業づくりや指導の工夫 ◇授業におけるねらいの明確化や話し合いの工夫、研修の実施
教職員の育成及び指導・監督	専門性の向上と授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・育成を目指す資質・能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成と教育課程の改善 	①	B	<ul style="list-style-type: none"> ○三つの柱を踏まえた個別の指導計画の作成 ○サブテーマを設定した研究と授業改善の推進、単元デザインシートによる単元構想と深い学びにつながる授業づくり、各部のテーマに沿った講師を招聘し、研修会を実施 ●内容のまとまりを意識した単元構想、各教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり ◇各部研修や講師を招聘した研修による専門性の向上
		<ul style="list-style-type: none"> ・単元デザインシートの活用による単元構想と深い学びにつながる授業づくり 	②	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿特版流れ図」を活用した自立活動の充実 	③	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理職も含めた各部研究体制と授業改善につながる協議の工夫 	④	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘した研修会やICT研修等をおとした専門性の向上と授業改善 	⑤ ⑮	A	
<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動の「鹿特版流れ図」の作成と研修会（月1回）の実施 ●「鹿特版流れ図」の活用が不十分、個々の課題に応じた自立活動の指導の充実 ◇「鹿特版流れ図」の活用に向けた研修の実施、年間を通じた希望研修の実施、研修内容の周知の工夫 					
対外活動	地域とともにある学校づくりの推進と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校のニーズの把握と支援の充実 	⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ○出向相談、来校相談、体験学習による各校への相談支援、研修会や各校コーディネーターへの情報発信による支援の充実、高等学校5校への支援 ●個々のニーズの把握、体験学習の増加に伴う対応時間の確保と情報提供の充実 ◇新規事業も含めた校内人材確保・人材育成

		<ul style="list-style-type: none"> 関係機関も含めた校内支援体制、支援会議の実施 	⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒支援部と連携した支援の流れの構築、関係機関と連携した組織的対応の充実、校内支援会議のもち方の工夫、係を中心としたアセスメントの実施 ●種々の支援ニーズに対して初期対応・早期介入できるための工夫、周知の仕方や相談場所の工夫、アセスメントの活用 ◇4月初めからの連携体制の構築、アセスメント力向上のための研修の実施 ○学校運営協議会での熟議による地域の人材・資源を活用した取組の実施（職場体験など）、地域と連携した教育活動（クリーン大作戦）やPTA活動の実施 ●教育課程との関連、学校運営協議会に係る職員の理解推進 ◇年間指導計画への位置付け、職員向けの情報発信 ○Rokustagram、学校公開の工夫、新聞掲載による積極的な情報発信、学校ホームページのレイアウトの工夫 ●学校ホームページでのタイムリーな情報発信 ◇更新スケジュールを立てる等の計画的な情報発信 ○新校準備室によるマニュアル等の整備見直し ●校務分掌の定期的な見直し ◇学校改善による定期的な検討と見直し
		<ul style="list-style-type: none"> 教育課程と結び付けた地域の人材・資源を活用した取組の実施 	⑫ ⑰	B	
		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの積極的な情報発信（コミ・スクだよりの発行、コミ・スクコーナーの設置） 	⑫ ⑬ ⑰	B	
		<ul style="list-style-type: none"> Rokustagramやホームページ更新等の積極的な情報発信と学校公開の内容の工夫 	⑬	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の見直しと新校に係るマニュアル等の整備 	⑭	B	
コンプライアンス確保	風通しのよい職場環境づくりと不祥事ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ・言葉かけ・話し合いの重視による職場環境づくりと校内ルールの周知 	⑮	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス全体研修や各部研修の実施、「意識していこうキャンペーン」の実施、不祥事防止に向けた校内ルールの周知による意識の醸成、学校運営協議会委員と新規採用教員によるコンプライアンスに関する熟議の実施 ●当事者意識の高揚 ◇自分事としてとらえられるような効果的な研修の工夫
		<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修の工夫と「意識していこうキャンペーン」の実施 	⑮	B	
働き方改革	時間外勤務の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 効率化を図るためのタイムマネジメントの実践による退勤時刻の遵守（時間外勤務月45時間未満、年360時間未満） 	⑯	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退勤日と完全施錠時刻の明確化と周知、退勤時刻遵守の醸成、学校改善（前・後期）の実施 ●業務の平準化、多忙感の軽減 ◇校務分掌組織の見直しと業務改善の継続、各自のタイムマネジメント見直しの継続 ○校務支援システムの活用（個別の指導計画・出席簿） ●進捗状況のチェック、活用状況の把握 ◇より効果的・効率的な活用の見直し
		<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム活用の推進 	⑯	B	

I C T活用	教員のスキルアップ と授業における児童 生徒の活用の推進	・ I C T研修の実施と実践事例の作成・共有	⑤ ⑮	B	B	○長期休業中の I C T研修によるスキルアップ、研修会 のオンデマンド配信による活用の推進 ●アプリや最新機能の使い方等の情報発信、使用者の不 注意による破損防止、経年劣化による機器の動作不良 ◇アップデートに合わせた研修会や使用者の不注意によ る破損等ポータルサイトを利用した情報発信の工夫、 計画的な I C T機器の更新や入替え
---------	------------------------------------	-------------------------	-----	---	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない